

# 平成28年度病害虫発生予察注意報 第1号

平成28年6月23日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

対象作物：早期水稲、普通期水稲

対象病害虫：いもち病（葉いもち）

1 対象地域 県内全域

2 発生量 多い

## 3 発表の根拠

- (1) 病害虫対策チームでは水稲巡回調査を6月16日から22日にかけて実施した。早期水稲では6月22日現在、葉いもちの発生ほ場率50.0%（平年：12.0%、前年：40.0%）発病度5.2（平年：0.9、前年：7.1）となっている。普通期水稲では移植前から移植直後のほ場が多い中、苗の葉いもちが大分市、日田市、竹田市、豊後大野市の調査地点で確認されている。また移植が比較的早い佐伯市では一部ほ場で中発生となっている。
- (2) 6月16日福岡管区气象台発表の1か月予報によると、気温は平年並～高い確率が90%、降水量は平年並～多い確率が80%、日照時間は平年並～少ない確率が80%と、高温、多雨、寡日照で推移すると予想されている。本病は冷涼、寡日照条件が発病に好適である。本年は冷涼傾向ではないが、多雨及び寡日照により徒長傾向となり発生を助長する可能性がある。
- (3) イネ葉いもち発生予測モデル（BLASTAM）によると、本年は6月5日から17日にかけて感染好適条件が出現している（表1）。

表1 BLASTAMによる感染好適条件の出現状況（6/5～6/17）

月/日	院内	日田	玖珠	竹田	佐伯	宇目
6/5	—	—	—	—	●	—
6/9	●	—	—	—	—	—
6/12	●	—	—	—	—	—
6/13	—	—	—	●	●	●
6/16	—	—	●	●	●	●
6/17	●	●	●	—	—	—

注）感染好適条件出現の約一週間に初発病斑が認められ、約二週間後に病斑が目立ってくる。

●好適条件：

湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20℃～25℃の範囲にある。

## 4 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生が多い場合は、直ちに防除を行う。
- (2) 苗箱施薬を行っていない圃場では、粒剤による葉いもちの予防に努める。
- (3) 「ヒノヒカリ」や「あきまさり」など本病に弱い品種の作付けが行われている地域では、特に注意が必要である。
- (4) QoI剤（オリサストロビン、メトミノストロビン、アゾキシストロビン）については、耐性菌が確認されているので、使用を控える。
- (5) 穂肥の過剰投与は、本病の発病を助長させるため、注意が必要である。
- (6) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。  
（ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>）